

TV東京「アド街ック天国」で1位になった柳瀬川

清瀬地域支部長に就任して

支部長 永代 達三(昭48政経)



今年の五月の「定時総会」において、中村前支部長の後任として会員の皆様から新支部長に選任されました。

今回の「定時総会」もコロナ禍のもと昨年引き続き書面審議の総会となり、校友会活動も大きく影響を受け、いくつかの事業計画の実行が叶いませんでした。今後もコロナウイルス第七波の急速な拡大で引き続き社会活動全体が大きく影響を受け、終息の見通しはまだ見えていません。

このような厳しい社会環境の元ではありますが、粕谷元支部長、今井元支部長、中村前支部長と引き継がれ、実践されてきた「会員相互の親睦」「地域貢献」「母校支援」の精神を柱とし継続して清瀬地域支部の運営に尽力したいと考えております。そのためには暖かいご支援、ご協力をお願いする次第です。

現在の各地区の校友会は会員の高齢化に伴う会員の減少と新規の会員の獲得、特に組織活性化のための若年層と女性会員の増加が大きな課題となっております。この課題は以前からの課題であり、一朝一夕に解決できるものではありません。まずは、会員相互の親睦を一番の柱に様々な文化活動等を通じて、地域貢献、母校支援に貢献できればと考えております。「紫紺句会」のような文化活動を中心に明るく、楽しく皆様と一緒に会の活動を進めていければ幸いです。まだまだ未熟な点多々ありますが、今後ともよろしくお願いいたします。

令和四年の事業活動について

幹事長 清水 計明 (昭53商)



令和四年より前粕川幹事長の後任として選任されました。どうぞよろしくお願いいたします。

竹丘に二十年近く住んでおり、週三日の勤務と趣味の還暦野球をやっております。諸先輩方の築いてこられた校友会活動について、何かと分からない事が多く戸惑っておりますが、一生懸命任務を遂行していきたいと思っております。

第十回の定時総会は昨年に続き書面総会の開催となりました。総会員数五十九名に対して、書面評決書提出が二十九通ありました。結果、賛成三十九、反対ゼロとなり、全議案が可決されました。

ご協力いただきました皆様に改めてお礼を申し上げます。書面評決書にコメントを寄せていただきましたので一部ご紹介させていただきます。

☆役員の皆様いつもありがとうございます。コロナ感染に注意され、健勝に事業執行できるようお祈りします。

☆数年前より病氣療養中の為、歩行困難で寝たり起きたりの状態です。会合やイベント等すべて欠席で申し訳ありません。

☆お役目、ご苦勞様です。コロナ騒ぎに負けず会報発行など頭が下がります。

☆いつも支部の運営をありがとうございます。宜しくお願ひします。

二〇二三年、コロナ禍で校友会の活動も思うように運営

していけない状況でした。今後もこの状況が続くのか、収束するのか分からない中で、校友会の皆様と共に地域社会との連携をしつつ臨機応変に楽しく無理なく運営していければと思います。

今年の事業活動は、令和四年度定時総会議案にありません事業を進めていく予定です。これまでと同様に、コロナ禍を踏まえた中で、安全な実施が可能なかを検討しながら進めて参りたいと思います。

先日放送のテレビ東京「アド街ック天国・清瀬」では、東京なのにほぼ埼玉などと言われていましたが、「街を歩けば知り合いだらけ」、こんな街に校友会の皆様と創っていくるように努力していきたいと思ひます。

校友会の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

校友会に入会して

吉田 俊夫 (昭43政経)



昭和三十九年四月、明治大学政経学部政治学科に入会、当初の住まい(四畳半のアパート)は、学校の近くの世田谷区松原で、大学まで徒歩で通っていました。そのためクラスの友人が、足繁く寄ってくれて、寂しい思いはありませんでした。お陰で静岡、和歌山、北海道の友人が出来、今でも四〜五年に一回は会っています。但し、コロナ以来まだ会っていないのが残念ですが。

ゼミは岡正雄先生の文化人類学ゼミナール(日本文化の比較研究―日本は単一民族ではなく五つの種族文化が伝播して構成されている)を受講、年に一度一週間の現地合宿があり、現地の青年との交流を図ったりしていました。一回目は長野県安曇村(現在は松本市)で村宮ホテルに宿泊。その時はウィーン大学の学生とともに、昼

は自然探索、夜は岡先生のお話と地元の青年と交流を図り楽しかったことが忘れられません。二回目は三重県志摩郡阿児町志島の公民館を拠点に村の従来からの風習や伝統的な行事について話を聞きました。昼は海女さんから採りたての「あわび」をその場で焼いてもらって食べたり、夜はそれぞれ(ゼミ学生)が二〜三人で村の青年(男女)のところに訪問して村の行事や風習について話を聞いたり減多に体験できないことを体験しました。ゼミ員は全員で十一名いましたが卒業後十年後に再会したときは十名になり、楽しい一夜を過ごしました。それ以降は二〜三年毎に幹事を決めて(二〜三人)一泊旅行を重ねています。幸い一人を除き、みんな東京近辺なので集まりやすく、それが長年続いてきた要因だと思ひます。

平成十五年十月、清瀬に居住を定め、以来十八年となりました。当地を選んだ理由は、緑の多さ、公園の多さでした。自転車で散策すると田畑等農地があちこちに見られ、地元産野菜の採りたてが食べられるのも魅力です。今回の入会のきっかけは、学生時代の友人や以前勤務していた会社の友人はいるけれど、当地の知り合いが全くいないことでした。そんな折、或る人より清瀬のボランティア活動について紹介しているパンフレットを貰い、そこに当会が紹介されていたことにより今回の申込となりました。どうぞよろしくお願ひします。



TV 東京「アド街ック天国」ベスト 20

我が故郷 (福島県いわき市)

福本 徳昭 (昭54工)



私は、高校三年生まで、福島県いわき市で育ち、いわき市が我が故郷になります。いわき市は、ご存知の様
に常磐炭鉱で、発展した市です。私が小中学校を過
ごした時期は、県知事もい

わき市出身の知事がいて、新幹線もいわき市を通るので
はと言われてましたが、結局郡山市を通る事になり、常
磐炭鉱閉山と相まって、いわき市は、ますます寂れる事
になりました。高校の校歌に「**峰は秀つ赤井嶽 水は清
し夏井川**」とある様にその昔は、風光明媚な所で子供の
頃は堰き止めた川で泳いだり、クワガタを積み木箱が一
杯に成るくらい採ったりしてました。その時の思いが、
現在の「清瀬の自然を守る会」に入会するきっかけにな



赤井嶽



夏井川



常磐ハワイアンセンター

昔は、田舎に出来た施設だったので、中学時代五十歳以上の皆さんが手ぬぐいを持って行き、プールの監視員から、ここは温泉ではないと注意されたり、当時あった黄金風呂をコインで擦

っています。また、小名浜港より水揚げした海産物も美味しく、特に貝焼きという名物が好きで、貝の中にウニをてんこ盛りし、金網で焼いた贅沢な名物で、ご飯が何杯でも食べられました。父が常磐炭鉱で働き、山が変わるたびに引越したので、小学校も四回転校しました。

ちよつと自慢になりますが、磐城高校在学中の、昭和四十六年夏の甲子園大会で、決勝まで行き、最後、神奈川県川島の桐蔭学園に0-1で破れ、準優勝しました。

同窓には世界的有名な音楽指揮者小林研一郎、木枯し紋次郎役の中村敦夫、古くは草野新平が先輩にあたります。女優秋吉久美子は同年で、磐城女子高に進みました。もし、磐城高校が男女共学であつたら同窓だったかもしれせん。

高校三年の時に常磐炭鉱が閉山し、父に「働きに出るよ」と言ったら父に怒られ進学しましたが皆様のお仲間になれた事は、父に感謝しています。

私の住んでいた内郷から、湯の岳という山がよく見え山の裏の方に常磐ハワイアンセンターがあります。常磐炭鉱が石炭を掘る際にお湯が出て、石炭採掘の邪魔になつておりましたが、逆転の発想で、常磐ハワイアンセンター(現在はスパリゾートハワイ)を始めて成功しました。

「これ金だぞ！」って自慢したりしてました。二〇一一年三月十一日に東日本大震災が発生しました。いわき市も目立ちませんが大ダメージを受けてます。得なくなってます。また、原発事故の風評被害もあり、厳しいチェックをして農産物、海産物を出荷しているのを知っているのですが、心無い人に非難され、歯がゆい思いもしてましたが、最近では、復興の兆しも見えて頑張れという気持ちで、いわき市を応援しています。SDGsでは、何かと目の敵にされる石炭ですが、CO2を出さないスキルは、世界一なので、見直されいわき市および福島県が復活すれば良いなと思う今日この頃です。皆様福島県をどうぞ宜しくお願いします。

なお、本年度より、山岡さんとホームページを担当させて頂くことになりました。宜しくお願い致します。

「清瀬市」がテレビに登場!

八月六日、テレビ東京の「アド街ック天国」に「清瀬」が取りあげられました。

選ばれた「清瀬」のベスト20は次のとおりでした。

TV東京「アド街ック天国」ベスト20

- | | | | |
|-----|---------|-----|------------|
| 1位 | 柳瀬川 | 11位 | 雑木林のみら |
| 2位 | 病院街 | 12位 | ひまわり |
| 3位 | ふれあいど〜り | 13位 | Kei楽 |
| 4位 | 旭が丘団地ほか | 14位 | BBつばめ |
| 5位 | 日枝神社 | 15位 | 志木街道 けやき並木 |
| 6位 | キッチンスズキ | 16位 | だいたい知り合い |
| 7位 | 武蔵野うどん | 17位 | 巨大な幼稚園 |
| 8位 | 魚三九 | 18位 | ラーメン和凡 |
| 9位 | みゆき食堂 | 19位 | 市の2割が畑 |
| 10位 | 同心居 | 20位 | うっかり埼玉県 |

下宿一年目の思い出

六田 作道（昭38政経）

昭和三十四年春。富山から夜行列車に十時間揺られ上京した。

上野駅で、出迎えの兄の顔を見てホッとしたのを覚えている。

すでに、文京区真砂町（現・本郷）にある兄嫁の実家にお世話になると決めていた。

家主、二夫妻とは親戚関係であったが初めてお会いした。ご主人が大変小柄で高校の教師。奥様は小粋で和服が良く似合う美人。言葉遣いが江戸っ子という印象が強い。

いわば蚤の夫婦の態である。

後日、湯島天神に参詣した節、「婦系図」（泉鏡花）を連想し、当三家も「真砂町の先生」だなあと考えたものでした。

数日後私の歓迎会ということで池之端の鰻の老舗「伊

豆菜」に行った。生まれて初めての鰻重の美味しさに感激・・・私の食のテイストを数段上げてくれたと思っ

ている。 当時は、都電が縦横に走っており、最も手軽な移動手段だった。先生に誘われ都電に乗って浅草や巣鴨、入谷

「朝顔市」等と同行、都会の風情を垣間見たように感じた。

家の周辺は、はず向かいに恒春閣という料亭があったが、現在、駐車場になっていて当時の面影は全くない。

なお、私の下宿先は鑑坂診療所になっている。 坂の街なので、住んでいた職人に因んだ名の鑑坂、炭

団坂・菊坂等がある。 菊坂にある樋口一葉の旧宅跡は、下宿の真下辺りに位置している。

徒歩十分の場所に坪内逍遙旧居・常盤会跡があり、ここが炭団坂上である。この坂の石段を降り左折し、少し

先の左側小路の突き当りに井戸が現存している。すぐそばに古い木造三階建ての家屋があり、一葉旧宅跡では：

と言われている。 菊坂を東方向に歩いていくと東大の赤門である。その

途中、明暦の大火（振袖火事）の火元といわれる本妙寺跡地（現在は学校）がある。また、創業二百五十年を誇る吉田金魚店「金魚坂」がある。多くの芸能人が訪れる有名店である。話は逸れるが、かつて私が勤務していた病院の院長の実家がこの金魚店である。

この年の秋。真砂町隣の弓町を歩いていて、富山県和合中学校御一行様の看板を発見、私の母校名である。

この辺は修学旅行の宿が沢山あったが偶然のことで驚いた。尋ねてみると、在校時の数学の先生が同行されていた。面会が出来、先生も驚いた様子で話が弾んだことを鮮明に覚えている。まさに奇遇でした。

田舎者ですから、せめて山手線の駅名を覚ようと、柳亭痴楽の「痴楽つづり方狂室」（六十代以下の方は？）を真似たりしました。最近、やたら長い駅名が誕生しましたが痴楽師匠は、「はて、どうしたものか」と困っているのでは・・・。

そんなこともあり、都電一本で行ける上野鈴木演芸場は、私にとって一番の娯楽の場でした。既に亡くなられた方ばかりですが、柳家小さんをはじめとする「名人」と言われる噺家の生の落語を目の当たりにしたことは、自慢できることの一つと思っています。

私はその後、五カ所に転居し、昭和四十八年三月に清瀬に引越してきましたが、下宿と言えば、この真砂町だけです。何せ六十年以上も前のことですので、時系列が不明で失念したことは多いが、一年目だけはしっかり記憶している。



炭団坂



樋口一葉旧宅跡



吉田金魚店（金魚坂）



樋口一葉



本郷三丁目交差点

【特別寄稿】

能登のキリコ祭り

佐藤 房夫 (昭39工)

石川県能登地方にはいろいろな祭りがありますが、なかでもキリコ祭りには中能登から奥能登の各地区で行われています。七月第一金・土曜日の能都町宇出津の「あばれ祭り」から始まり、九月まで毎週どこかの地区で行われています。今回は代表的な祭りを紹介します。

「あばれ祭り」 能都町宇出津地区

一日目は宇出津漁港の広場に大松明を三基ほど立て燃え上がった松明の周りを各地区から集まった約四〇基のキリコが乱舞します。おりからの浜風で火の粉を浴びながら舞う様は壮観です。キリコに乗って笛や太鼓をたたく子供たちも火の粉を払うのに大変です。二日目はキリコに加え神輿も登場します。各地区のキリコが整列して八坂神社へ向かいます。途中神輿を道路に叩きつけたり海や川に投げ込み岩に叩きつけます。最後は神社に奉納したのち火の中に投げ込み燃やします。この神輿の御神体は荒ぶる神「すさのうのみこと」であり、まさに荒ぶる神輿です。キリコ祭りの中でも最も勇壮な祭りの一つ



あばれ祭り (一日目)



あばれ祭り (二日目)

です。この祭りに参加するために帰って来る若者が多数いるそうです。

「石崎奉燈祭り」 七尾市石崎町

石崎八幡神社の奉納祭で、普段は小さな漁港ですが各地区からキリコが集まり、なかでも高さ一〇mを超す奉燈が六基登場します。海の男約百人によって担ぎ上げられた奉燈は狭い路地の家をかすめるように運ばれ、よつ辻では担ぎ回して乱舞します。夜には奉燈に灯りがともり、海上から火花が打ち上げられて幻想的な雰囲気を出します。各家は親戚縁者を招き「馳走を振舞います。道路沿いの家々は窓を開けっぱなしにしてその様を通行人に見せるのです。いかに豪華に振舞っているのか漁師の心意気を見せているとことです。

「輪島大祭」 輪島市中心部に四地区

輪島中心部の「奥津比咩神社」、「重蔵神社」、「住吉神社」、「輪島前神社」の四地区で八月二十二日から二十五日にかけて日毎に行われます。顔に絵具を塗り付けた男達が神輿を海に入れる水中神事や、朝市の駐車場に大篝火を焚き各地区のキリコが乱舞し、篝火のてっぺんの御幣を奪い合う様は勇壮です。

「名舟大祭」 輪島市名舟

神輿を舟に乗せて海上の島居まで海上渡御し、神社に奉納したのち、キリコが舞う篝火のなか子供組から若衆



石崎奉燈祭り



輪島大祭・水中神事

組で御神乗太鼓の奉納打ちが披露されます。名舟は御神乗太鼓の発祥の地であり、天正五年上杉謙信の能登攻略のとき、古老の一計で木の皮で作った面をかぶり頭に海藻を付けて陣太鼓を打ち鳴らし、上杉軍に奇襲をかけて敗走させたのが始まりといわれています。

「お熊甲祭り」 七尾市中島

この祭りはキリコの代わりに大きな杵旗を担ぎ「杵旗祭り」とも言われています。大陸の渡来神を祀る日本一長い名前の神社「久麻加夫都阿良加志古神社」の祭礼です。天狗の面を付けた猿田彦が鉦や太鼓に合わせて踊りながら先導し屈強の若衆が二〇mもある深紅の杵旗を担ぎ上げ神輿も続きます。神社に奉納した後広場に集結し杵旗を水平に倒したりして技をみせます。十九末社が勢揃いすると壮観です。

「七尾祇園祭」、「向田の火祭り」、「曾々木大祭」、「寺家キリコ祭」、「沖波大漁祭」、「飯田灯籠山祭」等々ありますが今回は割愛します。

能登の市町村は少子化と高齢化で伝統行事が維持出来なくなっています。「能登はやさしや土までも」とおり、能登は人の優しさや名所と伝統ある祭りの地として今後も続くことを願っています。

今回紹介した石川県は永代支部長の出身地であり、また私の最後の赴任地で思い出深いところです。海の幸も豊富で温泉もあり、ぜひ一度お出かけください。



名舟大祭・御神乗太鼓



お熊甲祭り

清瀬その七 (清戸の獅子舞)

粕川 偉三男 (昭48政経)

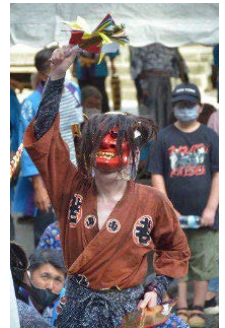
三年ぶりで「清戸の獅子舞」が七月十七日(日)十六時より日枝神社にて挙行されました。

寄せ太鼓が境内に響き渡ると、山の神の舞が始まりました。境内から一旦離れ、日枝神社の鳥居から拝殿前の舞場に進み、棒使いにより舞場が清められ、山の神、雌獅子、雄獅子が加わって舞が進められました。

山の神が右手に持つ幣束は厄除けのご利益があると云われおり、コロナ退散を祈念しているようでした。

猛暑で舞う演者の若者が汗を拭き拭き、水分補給をしながら舞う姿には感動を覚えました。将来の演者候補の幼子が熱い視線を送っているのが印象的でした。

清瀬の夏の風物詩と定着した「ひまわりフェスティバル」は今年も開催が見送られましたが、来年こそ「清戸の獅子舞」「ひまわりフェスティバル」が同時開催され清瀬の夏が一層盛り上がる事を祈るばかりです。



篆刻教室開校

粕川 偉三男 (昭48政経)

「紫紺句会」に続き、この度、校友の和田さんのご好意により「篆刻教室」が新たに開校されました。六月に体験教室が開催され、道具の揃え方、「篆刻(てんこく)」の簡単なレクチャーを受けて七月に第一回が開催されました。校友から五名、和田さんと同門の女性一名が参加されました。

今回の教室開校のきっかけは、和田さんが会報に「梅狸庵書道教室」の広告を掲載して頂いたこと(第十九号第二十号)に始まります。

今年の三月、和田さんが出展された「豊島区総合美術展」に中村さんと二人でお伺いした際、書道作品に押印されている「篆刻」の説明を受け「方寸の藝術」といわれる世界に興味を惹かれた事がきっかけです。

校友には各分野での達人が多くいらっしゃいます。野球、テニス、ゲートボール、ゴルフ、民謡、ウクレレ、ゴルフ、油絵、将棋、麻雀、植木、杖作り、そして俳句の達人と多士済済です。そこに「篆刻」



の達人が加わるのは時間の問題です。「俳句」と同じく「篆刻」も自宅で一人創作することが出来、「篆刻教室」で先生からご指導いただくのは有意義な時間だと思います。まず自分の「名前」の一字から始まり、いずれは人生訓や四字熟語に進み、出来れば来秋の市民文化祭に参加を励む・・・予定です(笑)。「教室」は、月一回の予定ですので、興味がある方のご参加をお待ちしております。

第十四回石田波郷俳句大会に向けて

榎谷 榮吾 (昭46法)

本大会を主催する「清瀬市石田波郷俳句大会実行委員会」では、新会長川戸淳一郎氏(弁護士)の下、新体制で準備を進めています。

今年の大会で大きく変わったことは、一般部の募集を休止したこと。理由については前号の会報第二十号に校友の大山恭子氏(実行委員会副会長)からご寄稿文の中で紹介していただきましたが、今年の大会はジュニアの部と新人賞の部を募集し、表彰を行うことになりました。現在選者の皆さんの審査が行われている状況です。今まで応募句のパソコン入力作業には我が校友会会員の多大な貢献がありました。今回一般部の休止により我々の負担は少し軽減されました。一般部には紫紺句会会員等校友からも毎年多数投句して入選者もいましたが、今年は応募の機会がなくなり残念に思っている方もいると思います。

俳句出前授業については、今年も市内小中学校に出向いて五月下旬から七月下旬までほぼ二か月間開催されました。厳しい暑さの中での出前授業でしたが、校友からは講師として大山さん、サポーターとして穴田さん、粕川さん、中村さん、榎谷が協力しました。

小中学生の感性豊かな俳句に接し、刺激を受けた次第です。

今年の表彰式は以下のとおり開催予定です。表彰式の運営には例年どおり我が校友会の協力を要請されると思います。

ご協力をよろしく願います。

日時 十一月二十七日(日)

午前 ジュニアの部の表彰式

午後 新人賞の表彰式

場所 アミューホール

紫紺句会活動報告

二〇二〇年春以来、コロナ禍により日常の生活は未だマスクの手放せない状況が続いています。そんななかで紫紺句会は感染予防に留意しながら開催しています。昨年、一昨年に比べ今年にはコロナ禍の影響で中止したのは二月だけでした。コロナ禍の前に比べると句会会員は減っていますが、常時十人くらいの参加で校友大山恭子さん(俳号細見道子さん)のご指導を受けながら句会を楽しんでいます。

二〇一四年六月に発足してから八年余が経過し、本年九月に第八十五回紫紺句会を開催しました。発足後十年と百回記念の句会も仄かに見えてきたように思います。コロナ禍の困難を乗り越えていつまでも紫紺句会が続いてほしいものです。また、校友会会報の「紫紺俳壇」のコーナーを盛り上げていきたいと思えます。

なお、本年四月から開催日を変更し、金曜日、午後一時半から三時半まで開催しています。

新会員を募集中ですので俳句に興味のある校友の皆さんは是非ご参加ください。

【紫紺俳壇】



紫紺句会指導

俳句結社「隗」 主宰 細見 道子

ゆるやかな風かはしゆく白日傘

紫紺句会

胡弓の音聞を連ねし風の盆

穴田 作道

夏暁や大人行き交ふ柳瀬川

永代 達三

片陰に順番待ちのラーメン屋

粕川偉三男

迎へ火に仏壇仏具の輝きぬ

粕谷彌太郎

米寿の宴笑顔弾くる夏料理

小林 信夫

竹猪口へ注ぐ竹筒冷し酒

佐藤 房夫

密避くるネット詣りの盃蘭盆会

島崎 光

今日もまた花をも焦がす夏日かな

中西 宣一

大樽の葡萄酒醸す古き城

中村 曠

時の日や昔漏刻今電波

西尾 修一

原爆忌平和平和と黙待す

榎谷 榮吾

夏木立音無き世界昼下がりに

村野 良明

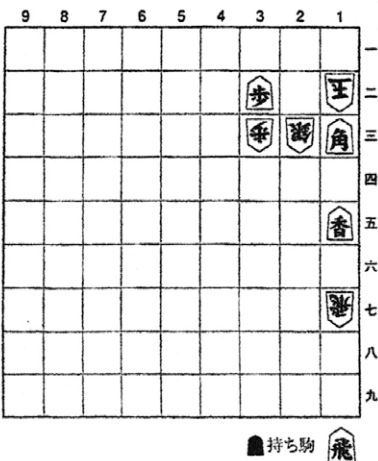
白玉や間もなく沈む怒りごと

山尾久美子

チャレンジ!



詰将棋(五手詰) 解答は次頁



詰将棋解答

- ▲2二飛 □1一玉
- ▲2一飛成 □同玉
- ▲3一角成 までの5手詰



◎会費募集中!

年会費 二千元
 夫婦会費割引制度あり 配偶者一千元
 ※入会初年度は無料です。
 ◎会費納入のお願い!
 本会報は皆様の会費で制作しています。

みんなの情報コーナー



第十回多摩湖ウォーキング(六ヶコース)

- ・日時 十一月二十六日(土) 小雨決行
- ・集合 西武球場前駅改札外 九時三十分
- ・秋の紅葉を楽しみ、健康づくりに歩きましょう!!

第十四回石田波郷俳句大会表彰式

- ・開催日 十一月二十七日(日)

午前 ジュニアの部表彰式
 午後 新人賞表彰式

紫紺句会

- ・開催日 毎月第二金曜日 午後一時三十分

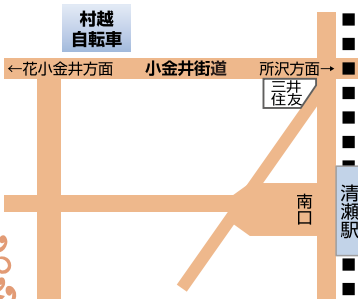
会場 アミュービル六階

第二十五回ホームカミングデー

- ・開催日 十月二十三日(日)
- ・会場 明治大学駿河台キャンパス

あなたの街の
村越自転車

〒204-0022
 清瀬市松山2-3-3
 Tel 042-491-0349
 村越 勝重(S50工)



NPO法人



健康遊技たんぽぽ

- 健康麻雀
- 午前の部 10:00~13:00 500円
- 午後の部 13:30~16:30 500円
- 一日の部 10:00~16:30 1,000円
- *入会金...1,000円
- *年会費...2,000円
- ☆セットのお客さま大歓迎(要予約)

清瀬駅南口から徒歩1分
 清瀬市松山1-11-17 杉田ビル2階
 ☎042-495-7708

篆刻を楽しみま書



「てんこく」は書道芸術の一分野です
 頭と手先、フル回転の楽しみ!
 『梅理庵篆刻教室(和田素洞)』
 『教室』清瀬駅南口すぐ
 『日時』毎月中旬の水曜日午前
 和田 寿文(S49法)
 bairian510195@gmail.com
 042-495-3349
 初心者大歓迎、
 お気軽にお問合せを

◎清瀬地域支部の情報は
清瀬のホームページ

<https://meiji-3.jimdofree.com/>



みんなの「会報」にご協力を!
 「趣味」「旅行記」「エッセイ」など
 ◎投稿大歓迎!
 応募は紫紺ネットでお願ひします。
 清瀬紫紺ネット
 kiyose-event@meiji-tama.net



ポスター
 パンフレット
 会誌・自分誌など



環境にやさしい

(有)スガハラ印刷

〒204-0022
 東京都清瀬市松山 2-7-14
 TEL 042-492-2210
 FAX 042-491-8118
 E-mail :
 sugahara@sugahara-p.co.jp

POSターミナルの導入・開発支援など

有限会社 マイテック

代表取締役 岡崎 満

本店
 〒113-0033 文京区本郷2-40-7
 YG30ビル 6F
 Tel 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763
 URL <http://www.a-mytech.co.jp/>

連絡先
 〒204-0022 清瀬市松山1-27-1
 Tel 042-492-0611 Fax 042-495-8357
 特別顧問 粕谷彌太郎
 (S28 政経)